〝還暦おやじ〟の新人農業者手帳

平成27年度新規就農者
遊佐宏文（ゆさ ひろふみ）

一、カラス&キツネとの共存共栄

農業者となり、これまで意識したことのなかったモノ達との関わりが多くなりました。それはカラス、キツネやネズミをはじめ蝶など各種昆虫とその幼虫等の農家の大敵です。営農一年目には、ミニトマトが枝ごと持って行かれたり、カラスとキツネが競い合うように収穫直前のトウモロコシを食い散らかしたりと散々悔しい思いをしました。

その一方で動物たちに気付かされたこともありました。例えば、近くにキジがいて毎年「ケーン、ケン」という鳴き声を聞かせてくれますが、ハウスを建設する直前には私の畑の真ん中を悠々といききしていましたし、冬季間にキツネが畑の真ん中を横断し足跡を残していました。実はこうした〝けもの道〟を私のハウスが遮断して彼らの環境を壊したのです。

動物は彼らの都合で生きています。ネズミなどはキツネやイタチの入ってこない安全な場所に潜り込んで子を産んだり、冬を越したりと、私の都合とは相いれない事象が発生します。ネズミの寿命は三年のようですが、年次で特徴が異なります。一年ネズミはカゴで捕まえても怖れる様子もなく餌を食べ続けています。二年ネズミになりようやくストレスを感じ始める動作をします。三年ネズミともなると私がカゴに近づくや「チュー・ギィ・チュー」という恐ろしい鳴き声を発し、つついた小枝に噛みついたり私を睨みつけて威嚇したりと相当の貫録です。

捕らえたネズミたちは、私の天敵カラスとキツネの餌になります。トラクター耕起時に畑の虫を食べに集まってくるカラスとネズミを餌としているキツネへの返礼として〝共存共栄〟という妥協をするしかありません。ただし、地域によってはエゾ鹿やアライグマなどのほかにヒグマの被害に遭われている方々のことも聞いています。是非、動物保護の陰で農業者達が随分苦しんでいることを知っていただき、適正に駆除されることを願う次第です。

▲モンシロチョウとカナブン

▲コオロギ

▲迫力の三年ネズミ

二、防虫ネットの活用と思わぬ効果

昨年ハウスに防虫ネットを設置しました。一年目に蝶の群れが中に入り生まれた本来は緑色のはずの青虫が、トマトの赤い色素リコピンに染まって多くの青虫ならぬ〝赤虫〟が発生したためです。

当初は風通しが悪く室内温度が下がらないのではとの懸念もありましたが、特に問題無しでした。今では、虫などが入らなくなったのはもちろん夜間も開けっ放しにしておけるのでカビの発生も無くなり、更に嬉しいこともひとつ。冬場に防雪ネットとして活躍してくれたのです。降雪に邪魔されずにハウスに出入りでき、光合成のための除雪の際もビニールの損傷を気にせず作業できたのです。

実は降雪前にネットを撤去する予定でいたのですが、他の作業で忙しく撤去できずに冬を迎えました。それを妻がこう言いました。

「あんまり頑張らないで、たまに手を抜いたほうがいい結果がでるんじゃないのォ。」

悔しいけれどその通りのようです。（了）

（平成三十年四月十日記）

JAいしかり
2018年5月号 Vol.350　2018年5月10日発行　発行／石狩市農業協同組合　〒061-3361 北海道石狩市八幡2丁目332-11
TEL：(0133)66-3321　FAX：(0133)66-3131
ホームページ：http://www.ja-ishikari.or.jp